

精華町の環境

令和~~4~~5年度(202~~2~~3年度)の報告

令和~~5~~6年~~1~~2__月

精華町 健康福祉環境部 環境推進課

■はじめに

第2次精華町環境基本計画は、「精華町環境基本条例」に基づき、令和3年（2021年）に策定しました。

本報告書は、条例に掲げる基本理念の実現を目指し、住民、事業者、行政などすべての参画と協働のもと、環境に関する施策を総合的かつ計画的に推進するためにまとめたものです。

1. 目標像の進捗状況 P.2

第2次精華町環境基本計画の環境目標の進捗状況を紹介するページです。令和4・5年度（2023年度）の内容に基づいて各目標像の進捗状況の紹介を行っています。

目標像1【協働・環境学習】

「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～ P.3

目標像2【生物多様性・安全】

「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～ P.5

目標像3【資源・気候変動】

「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～ P.7

目標像4【経済循環・創出】

「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～ P.9

コラム：精華町の温室効果ガス排出量 P.11

2. リーディングプロジェクトの取り組み状況 . . . P.13

環境像・目標像の実現に向け、当面重点的に取り組む具体的行動として位置づけられた5つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。令和5年度（2023年度）の内容に基づいて各リーディングプロジェクトの取り組み状況の紹介を行っています。

リーディングプロジェクト① P.14

次世代を育むプロジェクト

リーディングプロジェクト② P.14

精華3C（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

リーディングプロジェクト③ P.15

「今日あなたは（環境に良いことについて）何をしましたか」プロジェクト

リーディングプロジェクト④ P.16

精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

リーディングプロジェクト⑤ P.16

環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

■計画の進行管理について

精華町では、「精華町環境基本計画」を推進するため、PDCAサイクル（Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(実施)）によって毎年、活動を評価し、進行管理を行います。この進行管理の中で、「精華町の環境」（年次報告書）を公表し、精華町環境推進委員会による評価と住民の皆さんからのご意見やご提案をもとに施策や事業を見直し、改善を図りながら、取り組みを進めていきます。

1. 目標像の進捗状況

精華町環境基本計画は、行政の施策を基本としながら、住民・事業者・住民団体など多様な主体の連携・協力によって相乗効果をもたらし、総合的に推進する体制で進めています。また、取り組みの相乗的な効果を評価し共有化するため、環境像と4つの目標像を定め取り組み内容を整理し、環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、当面重点的に取り組む具体的行動を5つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。

この「精華町の環境」では、4つの目標像について、令和4・5年度(2022・23年度)の取り組み結果に基づき、その取り組み状況などをまとめています。また、目標像に関連する定量目標、主な施策・事業の進捗状況を紹介します。環境推進委員会の評価を報告し、それに対する町の考え方を記載しています。

●目標像とリーディングプロジェクト(当面重点的に取り組む具体的行動)の関係

		【環境像】 「環境の恵み」「人」「知恵と技術」が交わるまち～環境交都・精華町～			
		【目標像】			
		①協働・環境学習 「人・社会・歴史文化」が 未来を育むまち ～環境“幸”都～	②生物多様性・安全 「里山・田畑・生活環境」を 継承するまち ～環境“恒”都～	③資源・気候変動 「資源・エネルギー」が 巡るまち ～環境“康”都～	④経済循環・創出 「環境・経済の循環」が 興るまち ～環境“興”都～
リーディングプロジェクト	次世代を育むプロジェクト	★	○	○	★
	精華3C(チャレンジ・クリーン・クロス)プロジェクト	○	○	★	○
	「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト	★	○	○	★
	精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト	○	★	○	○
	環境への一歩とつながりを育むプロジェクト	★	○	○	○

★：特に深いかわり

目標像Ⅰ		【協働・環境学習】 「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～
定量目標		
環境学習に資する町主催・後援の取り組み件数	2031年度の目標値	10(件/年)
	実績値(20223年度)	67(件/年)
	動向	目標値の670%を達成した。(前年度 670%)
取組実績 (20223年度)	<p>○町内希望小学校の4～6年生に「環境日記」で環境学習を実施。</p> <p>○「環境のつどい」で、環境日記に取組んだ優れた作品の小学生を表彰。併せて講演会、環境工作教室を実施。</p> <p>○環境省補助金を活用し、省エネ家電への切替を促す、ナッジ手法を用いたリーフレットを作成し、配布。</p> <p>○「STEP 映画会」で、環境啓発映画「種子」を上映。</p> <p>○「STEP 講演会」で、環境に関する講演会を実施。</p> <p>○木津川市と共催で、商業施設において coolchoice の啓発を実施。</p> <p>○「打ち水イベント」で、環境に関する体験学習を実施。</p>	
(要因分析)	<p>これまでの取り組みは対面が前提になっている取り組みが多く、前年度までは、新型コロナウイルス感染症拡大等により、イベント等の中止・規模縮小が影響し、取り組み件数が減少していたが、なお、本年度より例年は、環境日記、STEP 映画会、<u>精華学び体験教室打ち水イベント</u>、<u>子どもせいか祭りなどの概ね定例の7事業を定例で実施していた</u>ところであり、さらなる環境学習の機会を拡大・充実させるため、2031年度の目標値を10件と設定している。</p>	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
(1) 地域の多様な関わりの増進		
環境衛生一般 【精華町環境推進委員会 及び精華環境プラットホーム】	環境基本計画の推進に向け、環境推進委員会を34回開催。 環境プラットホームは、 <u>新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため見送った。住民向け及び事業者向けの計2回開催。</u>	環境推進課
(2) 環境学習の推進		
環境日記	町内の小学生を対象として、身近な環境に関心を持ち、地球に優しい活動に取り組んでもらうことを目的とした環境学習の一環として実施した。(応募総数 767件)	環境推進課
環境イベント 【環境のつどい】	環境日記に取り組み優秀な日記を書いた小学生に対して表彰式を11月2623日に実施。あわせて地球温暖化対策の講話、さらに環境工作教室を実施した。	環境推進課
クールチョイス啓発	環境日記と同じ、町内の小学生を対象として、地球温暖化対策を家族と一緒に考えてもらうきっかけとなるよう、小学生向	環境推進課

	けのクールチョイス冊子を配布した。	
その他の実施事業		
環境対策推進【STEP 映画会】【STEP 講演会】／ 学校での環境学習支援 ／ 子どもせいか祭り (舞台発表のみ実施)／ 精華まなび体験教室(中止)		
評価		
環境推進委員会の評価	環境日記も10年以上継続し、環境学習の一環として精華町を代表するような取組として定着した。今後は、各個人の小さな取組が大きな広がりにつながることを期待する。	
今後に向けて	コロナ禍でふれあい活動が学校を通じたもののみ に限定された。今後は、5類に移行したことを踏まえ、 対面型の体験活動についても 徐々に充実していきたい。	

● 取り組み内容

●クールチョイスの推進

地球温暖化対策につながる賢い選択をしようという国民運動（クールチョイス）を推進するため、小学生向けクールチョイス啓発冊子を作成・配布した。また、横断幕、懸垂幕、ポスター、のぼり旗等の設置により啓発を行った。



小学生向けクールチョイス啓発冊子



近鉄新祝園駅前



くるりんバス内

目標像2		【生物多様性・安全】 「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～
定量目標		
給食での地場産物の年間利用回数の割合	2031年度の目標値	・保育所給食 15.0%以上 ・小学校給食 20.0%以上
	実績値(2022年度)	・保育所給食 86 % ・小学校給食 110 % ※数量で算出している。
	動向	昨年度比で減少した。
子どもたちが里山や田畑に触れた件数	2031年度の目標値	・全生徒が触れること
	実績値(2022年度)	・学校農業体験 12回 ・森林環境教室 3回
	動向	実施回数は横ばいであった。
取組実績(2022年度)	<p>○学校給食への地場産野菜の食材提供について、学校給食地場産野菜調達業務では、<u>新たににんじんを追加したが、なすの納入がなかった。中学校給食への提供が始まった。</u></p> <p>○せいか里山の会では、子ども向けのイベントなども企画し、子どもの参加を促し、毎月開催しているが、子どもの参加はなかった。</p> <p>○学校農業体験として、町立の小学校5校、中学校3校及び支援学校1校の9校すべてで実施を計画していたが、<u>雨天のため中止した学校もあり、田植え8校(89%)・稲刈り7校(78%)で実施した。</u></p> <p>○森林環境教室として、町立小学校5校の内、3校で計7クラス・3回実施。</p> <p>○洛いも植付・収穫体験を、すべての町立保育所(3保育所)で実施。</p>	
(要因分析)	<p>○学校給食への地場産野菜の食材提供量は、令和4年度には学校給食地場産野菜調達業務で<u>新たににんじんの納入をしたが、なすの納入がなかったこともあり、天候不良の影響等により、じゃがいも等の根菜の提供量が減ったため</u>減少した。</p> <p>○取組内容は、例年実施している取り組みであり、新型コロナウイルス感染症による影響は低減したが、雨天のため中止になった取り組みもあり実施回数は横ばいであった。</p>	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
(1) 里地里山の保全と継承		
里山保全モデル事業	里山が持つ豊かな自然を保全、再生するための下草刈りなどの定例保全活動を計98回(参加人数+2693人)[令和3年度:計79回(参加人数+0+126人)]実施した。	農政課(産業振興課)
(2) 安全・安心な環境の確保		
環境汚染対策事業	河川水質調査、学研地区進出企業への環境保全計画の審査や環境保全協定による立入調査を実施した。	環境推進課
(3) 環境美化活動の推進		
道路・公園等維持管理事業	住民と行政の協働による「クリーンパートナー」により、道路清掃や除草、植栽帯の維持管理など美化作業を通して、環境美化に対する意識の高揚、環境との共生、安全で安心な	建設課

	まちづくりを推進した。 町内で32団体(1,628人)が活動を行っている 町内で34団体(1,678人)が活動を行っている。	
(4) 美しい景観の充実		
あき地等適正管理指導	あき地の所有者に対し、除草等の適正管理を促すための指導を行い、住環境の保全に努めました。	環境推進課
その他の実施事業		
健康づくり推進事業【食育の啓発推進】／農産物育成・販売推進事業／地域担い手育成総合支援事業／精華町まちをきれいにする条例の周知・啓発／きれいなまちづくり運動推進事業／都市公園維持管理事業／道路維持管理事業／農業委員及び農地利用最適化推進委員の取り組み		
評価		
環境推進委員会の評価	学校給食に納入している農家について、高齢化が進んでおり、今後いかに供給者を増やすことができるかが課題である。今後継続的な活動をどのように維持していくかヒアリングしていただきたい。また、環境白書において異常が平常になったと言われており、気候変動への適応について検討いただきたい。せいか里山の会について、子どもの参加が少ないことが課題である。	
今後に向けて	施策立案、推進に資する数値は把握に努め、住民や行政がともに活動を広げていきたい。今後、学校給食の納入については、会議の場などを通じて活動の維持について聞き取っていく。また、気候変動の適応について、大学との共同研究など検討していく。子どもたちが自然に触れるイベント等について検討する必要がある。	

●取り組み内容

●学校農業体験

田植えや稲刈りの農業体験を実施した。



精北小学校（稲刈り）

●せいか里山の会

里山の豊かな自然を保全し再生するため、下草刈りなどを実施した。



ほだ木の伐り出し

●河川の水質検査

毎年2回、町内の12河川、17地点の水質を調査し、きれいな水であることを確認した。



煤谷川



山田川



乾谷川



中溝川

目標像3		【資源・気候変動】 「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～
定量目標		
町民1人が1日に出すごみの量	2031年度の目標値 ※一般廃棄物処理計画の目標値と連動します。	平成27(2015)年度と比べて令和8(2026)年度に1人1日あたり、ごみ総排出量で約2.6%削減(20gの減量)
	実績値(2022-3年度)	+130.62%減少(9,04.8g減) ※平成27年度 776.8g/人・日
	動向	平成27年度比では、平成29年度までは減少でしたが、平成30年度に増加に転じ、令和2年度以降は再び減少傾向である。
資源・気候変動に関する情報発信 (うち、再生可能エネルギー等に関する情報発信)	2031年度の目標値	・20(件/年) (うち、5(件/年))
	実績値(2022-3年度)	・6367(件/年) (うち、2215(件/年))
	動向	目標値を上回った。
取組実績 (2022-3年度) <u>(うち、再生可能エネルギー等に関する情報発信)</u>	<p>○ごみの量について:家庭ごみの減量を目的に「食品ロス削減キャンペーン」として、町内公共施設や小売店などで啓発を実施。</p> <p>○情報発信件数について:広報誌への掲載は2945件(うち、56件)。ホームページへの掲載は3422件(うち、179件)。</p>	
(要因分析)	<p>○ごみの量について:「環境の森センター・きづがわ」が本格稼働し、より正確にごみの排出量が把握可能となった。また、小型のプラスチックごみ等の排出方法を変更したことに伴い、プラスチックは燃やすごみへのなどの勘違いが増え、燃やすごみの排出量が増加した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大等により、家庭での食事機会が増える等、事業系から家庭系へ排出区分が変わっている。</p> <p>○情報発信件数については、資源関係の情報発信件数は例年多いが、エネルギー関係は内容の充実が必要である。</p>	
主な施策・事業の進捗状況 ※[]内は前年度実績		
事業名	進捗状況	担当課
(1) 地球温暖化防止の推進と気候変動影響への適応		
自立型再生可能エネルギー導入促進事業	住宅におけるエネルギー供給の自立化の促進のため、住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置への補助を実施。京都府との連携による普及啓発に努めた。	環境推進課
庁舎維持管理事業	KES環境マネジメントシステムによる環境改善活動において、庁舎全体の二酸化炭素排出量は791,063,763,892kg〔令和34年度:760,477,791,063kg〕となり、対前年度比4.023.43%の増加減少となった。	総務課
(2) 循環型社会の構築		
ごみ収集処理	減量化に向け「食品ロス」の削減、生ごみの水切り、「その他のリサイクルできる紙」の分別の3点を重点的に推進した。また、廃棄物リサイクルに向け、9種類の分別収集を実施。	環境推進課

事業名	進捗状況	担当課
廃棄物減量・リサイクル推進事業	「ごみの収集日程表」及び「ごみの分別辞典」を作成し、各戸配布したほか、ごみ分別アプリを導入し、約 57 千件のダウンロードがあった。また、快適な生活環境を確保するため、町内各種団体の協力を得てクリーン・リサイクル運動を展開した。 4241 自治会、 11,13810,468 名参加[前年度 3542 自治会、 10,45411,138 名参加]	環境推進課
(3) 環境に配慮した交通手段の充実		
コミュニティバス運行事業【公共交通の利用促進】	高齢者や交通弱者の足として、公益性の高い施設を結び、地域交流の促進、福祉増進を目的に、コミュニティバス運行事業を実施し、 少しでも多くの人に <u>ご利用した。また、より利用いただけるようきやすい、運行形態等について、学識経験者や地域住民とともに検討を行い</u> <u>公共交通の利用促進に取り組んだ結果、一部地域でのデマンド交通への切替を行うこととなった。</u>	都市整備課
その他の実施事業		
公用車管理事業【公用車に低公害車を導入】／環境汚染対策事業【みどりのカーテン】		
評価		
環境推進委員会の評価	町内に立地する事業所の脱炭素を含めた先進的な方法論や取り組みの事例を町民の方に共有することが有効であると思われる。また、ごみの発生抑制について有効な普及啓発が求められる。	
今後に向けて	町内の事業者などとも意見交換しながら、まずは問題共有する場をつくるように努めたい。ごみについては、まず発生抑制を、併せて資源化促進の取り組みが必要であると認識しており、有効な啓発を検討・実施する。	

●取り組み内容

●食品ロス削減キャンペーン

10月・11月にのぼり旗や掲示物を町内公共施設、町内小売店等で掲示し啓発した。

また、平成29年度から京都府立大学と進めてきた共同研究の調査の中で、「食品ロスの削減」について効果が見られた3つの行動を実践していただいた冷蔵庫内の整理後の写真募集の実施や、環境推進課の窓口を受付場所としたフードドライブや、食品ロス削減アイデア募集を実施した。

☆「食品ロスの削減」に効果が見られた3つの行動☆

- ①「傷みやすい食品を、優先的に使う」
- ②「すぐ使う食品は、冷蔵庫の目線の位置に置く」
- ③「買い物前に、冷蔵庫を確認する」



目標像4		【経済循環・創出】 「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～	
定量目標			
HPや広報等における企業の環境に関する取組情報の発信件数	2031年度の目標値	・5(件/年)	
	実績値(20223年度)	・6件(件/年)	
	動向	目標値を上回った。	
取組実績(20223年度)	令和4年度からホームページや広報誌等に企業の環境に関する自主的な取組事例を掲載した。		
(要因分析)	—		
主な施策・事業の進捗状況			
事業名	進捗状況	担当課	
(1)関係機関との連携及び事業者の取り組み促進			
学研都市建設推進・活性化事業	京都・けいはんなの産業振興とスマートシティの情報発信により、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献するため、京都スマートシティエキスポを開催している。環境・エネルギー、交通、健康などの分野とICTの融合によるデジタル・まちづくり・ヘルス・フードテックを中心にオープンイノベーションの推進を図り、『超快適』スマート社会の創出は、新たな産業の創出に寄与すると考えられているを目指している。本町では、ICTを基盤とした産業に関する企業や研究者、住民などが多数集い、交流を図るこの京都スマートシティエキスポの運営に参画し、関係諸団体と連携して事業の進展を図った。	企画調整課	
企業誘致促進事業	○職住近接のまちづくりや地域経済の活性化を図り、また本町のまちづくりの基本理念の一つである新産業創出将来にわたり高度な都市運営を支える自立のまちづくりを推進するため、助成金を支出した。 ○企業立地促進条例を施行し、京都府などと連携を図りながら企業誘致に努めた結果、企業立地の促進が図れた。	商工推進室(産業振興課)	
特産品開発推進支援事業	精華町地域資源総合管理センター華工房を拠点とした精華町特産品開発連絡協議会の活動について、町内のJA直売所、大型商業施設内に特産品常設や近隣市町村の旬の駅に販売コーナーを設けて販路確保や販売促進に努め、地域特産品の育成を支援した。	農政課(産業推進課)	
評価			
環境推進委員会の評価	企業の環境に関する自主的な取組事例の把握など、新たな一歩が始まっている。脱炭素社会に向けて、企業の取組が加速している状況にあることから、企業と連携した取組みの推進が期待される。		
今後に向けて	関係機関や企業との連携を強化するとともに、企業間の連携を推進し、企業の環境への取り組みが加速するように、町も係わりを持ち、例えば、中小企業向けのセミナーのような施策を検討・実施する。また、精華町の地域経済循環分析を見ると地域の収支がマイナスとなっており、地域の商店や学校給食など、小さな循環を生み出す方を検討		

する必要がある。

●取り組み内容

●企業等の環境に関する取組事例を紹介

令和4年度から町内企業等の「環境に関する自主的な取組事例」を募り、町のホームページで紹介している。

町内で活躍されている他の企業の取組事例を参考に、環境に関する自主的な取り組みが層広がり、環境意識のさらなる向上を目指している。

<https://www.town.seika.kyoto.jp/kakuka/kankyo/1/1/1/20227.html>



●精華町の特産品

精華町特産品開発連絡協議会で、精華町の農産物などを使用した「あられ」「味噌」「各種ジャム」などを開発・販売している。



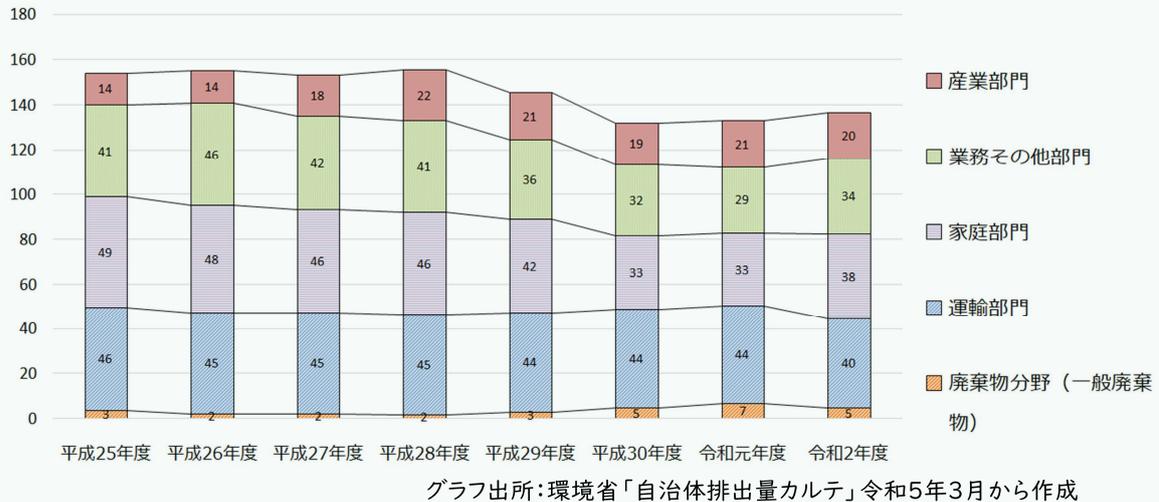
11月20日の「せいか祭り」で各種特産品を販売した。



●コラム:精華町の温室効果ガス(CO2)排出量

○精華町の令和2(2020)年度の温室効果ガス(CO2)排出量は、137千tCO2です。

○2017(平成29)年度以降は減少傾向となっていました。令和2(2020)年度は増加しています。

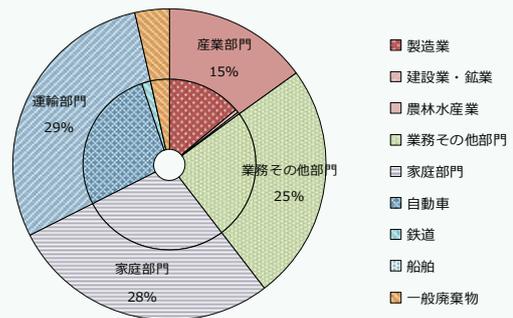


産業部門	製造業、農林水産業、鉱業、建設業におけるエネルギー消費に伴う排出です。
業務その他部門	事務所・ビル、商業・サービス施設のほか、他のいずれの部門にも帰属しないエネルギー消費に伴う排出です。
家庭部門	家庭におけるエネルギー消費に伴う排出です。自家用自動車からの排出は運輸部門での計上です。
運輸部門	自動車(旅客・貨物)、船舶、航空機、鉄道におけるエネルギー消費に伴う排出です。
廃棄物分野	廃棄物の燃焼処分に伴い発生する排出(焼却処分)、廃棄物の埋立処分に伴い発生する排出(埋立処分)、排水処理に伴い発生する排出(排水処理)、廃棄物の燃焼、製品の製造の用途への使用及び廃棄物燃料の使用に伴い発生する排出(原燃料使用等)です。

v

○部門・分野別の構成比は、運輸部門からの排出が最も多く、全体の29%を占めます。その運輸部門のほとんどが自動車(27%)からの排出であり、その自動車のうち、旅客が18%、貨物が9%を占めます。

○次いで、家庭部門(28%)、業務その他部門(25%)、産業部門(15%)と続きます。



排出量の部門・分野別構成比
(令和2年度(2020年度))

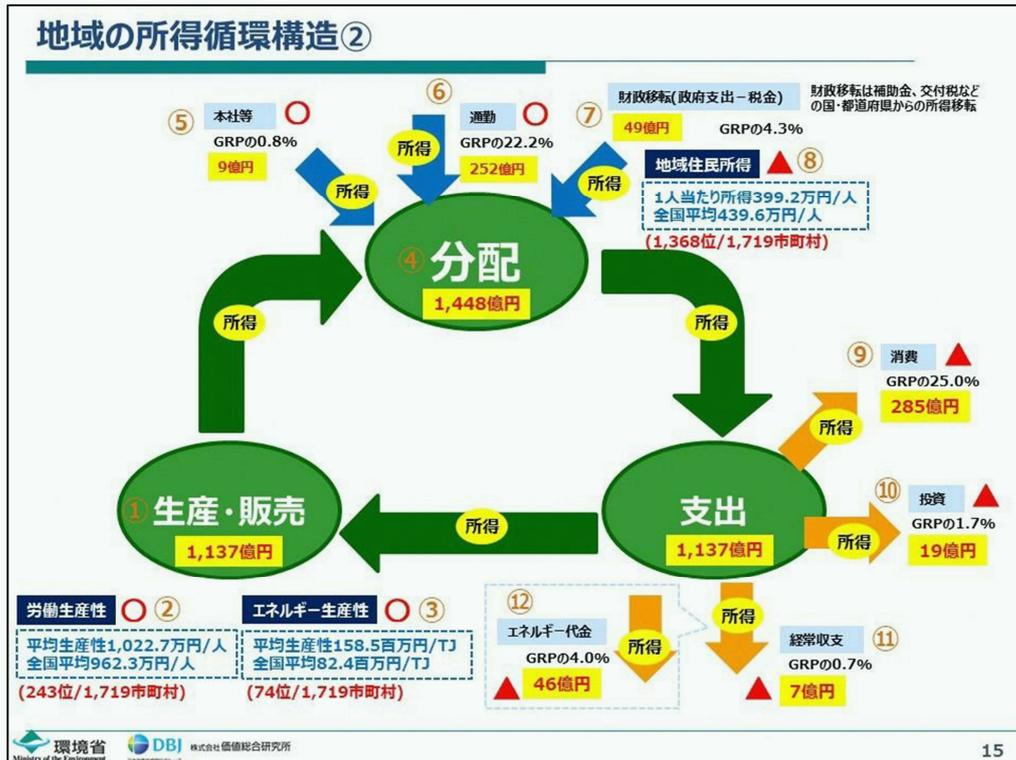
●精華町の地域経済循環分析の特徴は？

精華町の地域経済循環分析を見ると、地域で約1,100億生み出している。あと、約300億くらいを通勤や交付金等で稼ぎ、全体で1,400億くらいが地域に分配される。

ところが、消費がほぼ外に出ていて、地域の収支が少しマイナスとなっている。

また、エネルギー代金も、約50億が地域外へ支払われ、流出している。

地域の農作物の購入や地域の商店で消費したり、地域でエネルギーを創出したりすることで、地域経済も循環する可能性がある。



2. リーディングプロジェクトの取り組み状況

精華町の環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、総合的かつ横断的な推進が必要な当面重点的に取り組む具体的行動を5つのリーディングプロジェクトとして位置づけ、環境基本計画全体を実現に向けてリードする。

5つのリーディングプロジェクト

① 次世代を育むプロジェクト

これまでの環境学習の取り組みを活かし、伸ばす取り組みを実施する。

また、事業者と環境学習とのつながり創出、地域内の事業者同士が知り合ったり、事業者と地域や地域団体が出会い、新たな活動の創出を生み出す場づくりを行う。

② 精華3C（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り、未来を大きく育むまちを実現するために、まちを美しくする活動を進める。

また、環境に触れるきっかけとして、テーマを決めて取り組むものとする。

③ 「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

地域のすべての人が、環境に関わる活動の中で充実した体験・経験を得て、自主的な環境活動を進める。地域の事業者の方をはじめとして、地域の方が、どのような活動をしているのか、見える化する。

④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

地域の里地里山の保全・活用に関する取り組みの推進及びそれらの魅力・文化を町民へ伝えていくための活動を進める。

⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り育てるまちづくりを実現するために、多様な主体が連携可能な仕組みづくりを行う。

令和4・5年度（2022年度）の話題

○一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直し

平成29年3月に令和8年度までの計画期間として策定した同計画を、国や京都府の法律や計画等の制定・変更等の情勢変化に対応するため、令和5年3月に改訂を行いました。

令和8年度の目標を1日1人当たりの、資源・集団回収を含まない家庭系ごみを429.6gとし、1人1日当たり約20gの減を目標としています。

○災害廃棄物処理計画の策定

令和5年3月、大規模災害が発生した時に、災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理し、早期に復旧・復興させるために策定しました。



2. リーディングプロジェクトの取り組み状況

リーディングプロジェクトの広範囲な分野にまたがる取り組みを総合的に推進するためには、従来からの取り組みを踏まえ、社会情勢などを考慮し、その時々での動向を察知して、進めていくことが大切である。そこで、ここでは各プロジェクトに関連した施策等について紹介する。

① 次世代を育むプロジェクト

【トピックス】

● STEP 映画会

精華町環境ネットワーク会議 (STEP) と共催し、STEP 映画会及び竹あかりワークショップを実施。映画会では「種子 (たね) みんなのもの? それとも企業の所有物?」を上映し、意識啓発を実施した。

● 環境のつどい

優秀な環境日記を書かれた子どもたちへの表彰式と、京都府地球温暖化防止活動センターの協力で、地球温暖化対策の講話や環境工作教室 (光るマラカス) を実施した。



② 精華3C (チャレンジ・クリーン・クロス) プロジェクト

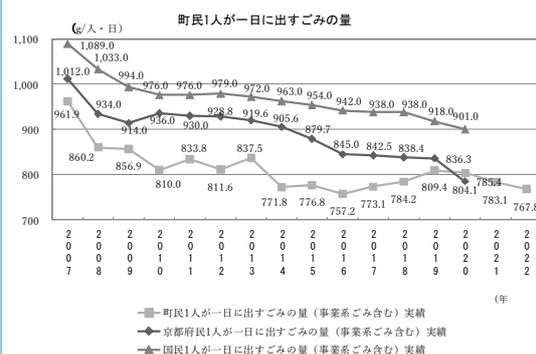
【トピックス】

● クリーン・リサイクル推進

地域の道路・公園などに散乱しているごみを住民自らが清掃する活動。開橋周辺で実施した重点活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に引き続き中止。(前々年度は各種団体などから約60名が参加)

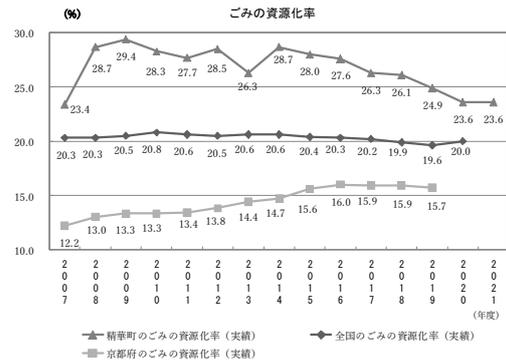
● まちをきれいにする条例

「ポイ捨て」「ふん放置」「落書き」を禁止した精華町まちをきれいにする条例を周知し、その効果を図るため、定点で観測及びごみ拾いを実施した。また、放置された場所に、チョークを使用し、日にち等を記載し、抑止力の向上に努めている。



●循環型社会形成

古紙回収事業、生ごみ減量事業、廃食用油回収事業、使用済み小型家電回収事業を実施。回収後、リサイクル事業者への引き渡しを行い、ごみ減量と環境負荷の低減に努めた。また、廃食用油、使用済み小型家電の拠点回収場所について、自治会や事業者の協力を得ながら増設に努めた。



③「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

【トピックス】

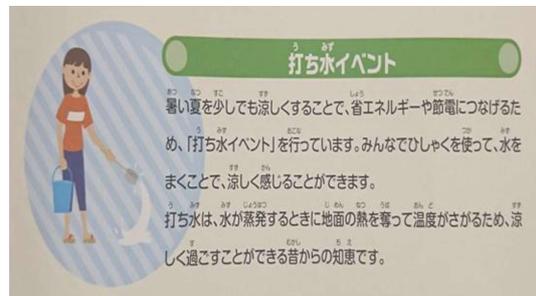
●精華町商工会青年部との協働による打ち水イベント

省エネルギー・節電を呼びかけるため、せいかガーデンシティで打ち水イベントを実施し、子どもたちに打ち水の効果を体験してもらっていたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、令和元年度から中止。その代替りとして、広報誌等で「打ち水」の効果や利用を呼びかけ啓発した。

●環境日記の実施

環境日記の取り組みは、身近な環境に関心を持ち、地球にやさしい活動に取り組んでいただくことを目的とした環境学習の一環として実施しており、6月から8月の間で8週間毎日続けて日記を綴る取り組みである。

令和45年度は、全国コンテストで学校賞として金賞1校、優秀賞1校、また個人では17名が入賞された。

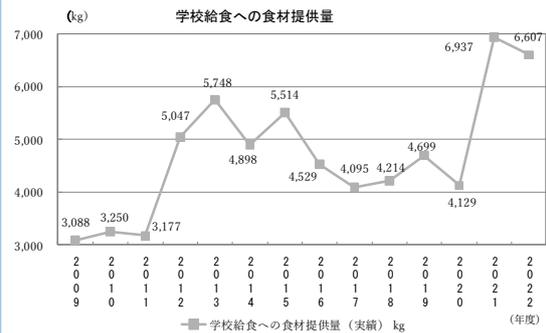


④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

【トピックス】

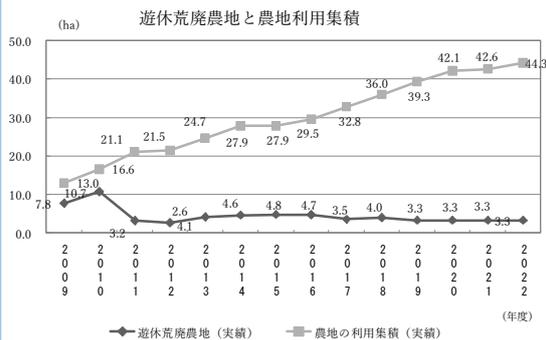
●学校給食への地元産野菜の提供

新鮮で安全・安心な農産物を子どもたちに提供できるよう、学校給食への地元産野菜の納入を促進した。令和4・5年度は学校給食地場産野菜調達業務で新たににんじんを追加したがなすの納入がなかったこともあり、10月から中学校への食材の提供が始まったが、天候不良の影響等により、じゃがいも等の根菜の提供量が減ったため、提供量は前年度と比較して減少した。



●遊休地解消

農地の集約化を推進するため、国による農地中間管理事業に取り組み、活用を呼びかけた。農地利用集積などにより、農地の有効活用を図り遊休荒廃農地面積を抑制することができた。

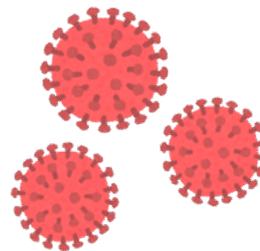


※農地利用集積とは、利用されていない農地を第三者（個人や法人など）に貸すなどして、活用された農地の面積のこと。

⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

【トピックス】

●令和5・4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため対策を行い、環境プラットフォームを開催できなかつた。また、イベント等の中止や規模縮小により、が減少し、多様な主体との連携を図ることができなかつた。



精華町の環境

令和45年度(20223年度)の報告

発行:令和56年12_月

精華町健康福祉環境部環境推進課

〒619-0285

京都府相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻 70 番地

電話:0774-95-1925

FAX:0774-95-3973

URL: <https://www.town.seika.kyoto.jp>